

榊原英資著「世界恐慌の足音が聞こえる」中央公論新社 2011年9月25日刊を読む

パラダイム・シフト

1. 時代が大きく変わっていく中で、日本経済や日本社会の常識も変わらざるをえません。一言で言うならば、それは成長の局面から成熟の局面への転換でしょう。日本の高度成長期は 1970 年代に終わっているのですが、いまだに成長メンタリティーは残っているように思えます。しかし、日本の国内経済については成長の時代が終わったということをしかり認識する必要がありますでしょう。もちろん、個別企業や特定の産業についてももう成長できないということではありません。企業はグローバル化の流れの中で、新興市場国などへ進出することによって、成長を維持し、場合によっては、加速することも可能です。前述したように、中国やインドなどはかなりの期間にわたって高成長を続けることが予測されるからです。事実、多くの日本企業はすでに中国やベトナムなどに進出し、また、インドへの進出を急いでいます。
2. しかし、国内については、成長から成熟へという変化を見極めて、戦略を変換していく必要があります。成熟は必ずしも停滞を意味しません。成熟した経済、社会は、また、それなりの特徴を持っています。特に日本の場合は、成熟社会として世界に誇れるいくつかの長所を持っています。成熟社会のキーコンセプトは、おそらく、環境、安全、そして健康でしょう。そして、このどの分野でも、日本の世界の先頭を走っているのです。
3. まず、環境。日本の国土の 65%は森。ノルウェーなどの一部の国を除いては、これだけ森を大切にし、維持してきた国は世界でも稀だといえることができるでしょう。空海や最澄の時代・密教の時代から、森は神の宿るところとして大切にされてきました。比叡山・延暦寺、高野山・金剛峯寺などです。ヨーロッパに比べて 3 倍の雨量があることもまた、森を豊かにしてきました。日本はまさに、森と水の国なのです。しかも、赤道から北上してくる黒潮とオホーツク海からの親潮が交叉し、世界でも有数の豊かな海に囲まれています。海の体積から言うと日本は世界 4 位の海洋大国。世界の三大漁場の一つです。確認されただけでも日本の海洋生物の数は 33629 種、世界中の海に生息する生物の 14.6%を占めています。実際、日本人ほど魚を食べる民族は世界にほとんど類を見ないといえるでしょう。日本の文明は、まさに、「稲作漁撈文明」なのです。安田喜憲はこの日本文明の、ヨーロッパと異なった特色について、次のように述べています。
4. 「稲作漁撈民は大地にはいつくばりながら、生物の多様性を温存し、森と水の循環系を維持し、山に森があり、川に水が流れ、海や川で魚が取れる限り、この大地で営々と暮らしてゆけるきわめて持続型の文明社会を構築していたのである。……」
5. 美しく、豊かな自然。そして肥沃な大地と豊饒な海。自然に恵まれ、また、それを大切にしながら生活してきたのが、この列島に住む日本人だったのです。
6. また、日本は世界に稀に見る平和な国でもありました。大陸の縁辺にあり、しかも、対馬海峡、玄界灘という荒海に隔てられていることもあって、異民族に一度も侵略されたことがないという

他の国では考えられないような歴史を持っています。建国から明治維新まで、対外戦争はわずかに 3 回。663 年の白村江の戦い、1274 年と 81 年の元寇、そして、1592 年と 96 年の朝鮮出兵の 3 回です。しかも、そのうち、日本本土で戦ったのは元寇の 1 回だけ。

7. また、平安時代、江戸時代と内乱も全くない平和な時代を 600 年以上も過ごしています。ヨーロッパはもとより、中国、インドでもこれだけ長く平和な時代が続いたことはありません。長い平和の時代があったことで、日本は極めて安全な国になっていったのです。1878(明治 11)年、馬で東北地方を縦断したイザベラ・バードは、前述したように、日本の安全性に強い印象を受けています。
8. しかも、バードは人々がとても親切で、子供たちが幸せそうだと述べています。安全で人々が親切な国、そして子供たちが大切にされる「子供の天国」だということです。いずれにせよ、戦争に次ぐ戦争をしていたヨーロッパからきたバードには、平和な日本はある種の桃源郷だったのです。
9. 健康という点でも、日本は世界のトップを走っています。日本の平均寿命は男女計で 82.3 歳で世界一。アメリカは 77.9 歳と日本より 4.4 歳も低い水準です。また、健康の重要な指標である肥満度でも 3%と世界最低の水準です。ちなみに、肥満度ナンバーワンはアメリカの 31%です。つまり、日本は世界で最も健康な国なのです。おそらく、その大きな原因の一つが、日本人の食生活の中心が米と魚であるということでしょう。安田の言う「稲作漁撈文明」の大きな長所の一つでしょう。
10. このように見てくると、日本は成熟社会のキーコンセプトである環境、安全、健康のいずれでも世界のトップ、あるいはトップクラスの実績を誇っているのです。つまり、日本は成熟国家としては、世界のナンバーワン。エズラ・F・ヴォーゲルが『ジャパン アズ ナンバーワン』を書いた時は、日本の高い成長率あるいは、GDP の大きさを評価してのことだったのですが、今や、成長率も、GDP も中国に抜かれましたが、成熟国家としては、つまり、環境、安全、健康では、まだまだナンバーワンなのです。
11. そろそろ、私たちも思考のチャンネルを成長から成熟に切り替えて、成熟社会としての日本を大切にし、また、素晴らしい成熟ぶりを世界に発信していくべき時ではないでしょうか。日本を含めた先進国は、たしかに、景気停滞の局面に入っているのかもしれませんが、それを停滞と嘆くことをしないで、成熟として楽しむことを考えるべきなのではないでしょうか。それは私たち日本人のメンタリティー、あるいは、生活のあり方のパラダイム・シフトですが、成熟国家として世界の先頭を走っている日本は、この点で世界のリーダーシップをとって、世界の「日本化」に努めていくべきなのでしょう。

P191 ~ 195

[コメント]

世界の最先端をいく環境、安全、健康の 3 分野を日本の最大の強みにすべきという榊原先生の考えは、日本がこの危機を乗り越える一つの大切な見識と考える。

— 2011 年 9 月 21 日 林 明夫記 —